



くすのき



学校のシンボル
くすの木

令和8年9月30日
さいたま市立土合小学校

豊かな感性に触れて

校長 日比 圭都



先日埼玉スタジアム2020で行われた浦和レッズのハートフルコンサートでは、本校金管バンドの子どもたちが素晴らしい演奏を披露してくれました。練習の成果を存分に発揮し、大勢の観客の前で堂々と演奏する姿は大変立派で、土合小学校の子どもたちの力を改めて感じる機会となりました。メンバー個々の感性が協調して音を作り出した演奏はとても素敵でした。

子どもたちは、私たち大人の想像を超える力をもっています。

もう20年以上前のことです。当時5歳くらいだった息子と歩いていたとき、風に吹かれて舞う落ち葉を見ながら、息子がふとこう言いました。

「葉っぱも運動会しているね。」

その言葉を聞いて、私は思わず「うちの子は天才かもしれない」と親ばか心をくすぐられたことを今でも覚えています。保護者の皆さんも我が子の何気ない一言に驚いた経験はありませんか。もちろん、特別な才能の話ではありません。子どもたちは皆、大人には思いつかないような発想をしたり、見慣れた景色の中に新しい発見を見つけたりします。その自由な発想や豊かな感性こそが、子どもたちの大きな魅力であり、可能性の源なのだと思います。

一方で、現代社会では安全面への配慮や失敗を避ける意識が高まり、「それは危ないからやめよう」「失敗しないようにしておこう」と、大人が先回りしてしまう場面も少なくありません。もちろん子どもたちを守ることは大切ですが、ときには挑戦する機会や自由な発想を伸ばす機会を狭めてしまうこともあります。

土合小学校でも、休み時間に校長室へ遊びに来てくれる子どもたちとの会話や、図工の作品などに触れるたび、その発想や感性の豊かさに驚かされます。「どうしてそんなことを思いついたのだろう。」と感心することもしばしばです。子どもたちは、私たち大人が気付かない世界を見ており、その一人ひとりの中に無限の可能性を秘めています。だからこそ、大人の「あたりまえ」を子どもの「あたりまえ」にしてしまわないことが大切なのではないでしょうか。正解を教えるだけでなく、子どもたちが自分で考え、試し、ときには失敗しながら成長していく姿を見守ることもまた、私たち大人の役割です。

土合小学校は、子どもたちの自由な発想や豊かな感性を大切に、一人ひとりの可能性を引き出せる学校でありたいと考えています。そして、子どもたちが自分ならではの見方や考え方を大切にできる学校を目指してまいります。

実りの秋を迎えました。子どもたち一人ひとりの感性の木にたくさんの実がなり、豊作の年となるよう、教職員一同力を合わせて支えてまいります。引き続き、本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

